

## 赤坂御用地のフンコバエ類

林 利彦

Toshihiko Hayashi: Lesser Dung Flies (Diptera, Sphaeroceridae)  
from the Akasaka Imperial Gardens, Tokyo

### はじめに

東京都心部のフンコバエ相は、国立科学博物館による1996年から2000年までの千代田区の皇居での調査の結果、林(2000)が15種を記録している。同様の国立科学博物館による調査が港区の赤坂御用地にて行なわれ、東京医科歯科大学の篠永 哲博士によって2002年から2003年までマレーゼトラップやスウィーピング法での採集された標本を博士のご厚意により調べることができた。また、渋谷区の常盤松御用邸敷地内で採集された4個体についても調べたので、あわせてここに報告する。

採集データに関しては、赤坂御用地は無表記、常盤松御用邸はTokiwamatsu, マレーゼトラップはMT, 篠永 哲採集はSSと表記した。また、本研究に用いられた標本はすべて国立科学博物館分館に保存される。

### フンコバエ科 Sphaeroceridae

#### マダラオオフンコバエ *Crumomyia annulus* (Walker, 1849)

腐植質に多く集まり、家畜の糞にも見られる。キノコからの発生例も報告されている。北海道から九州まで広く分布し、国外では東アジアからカナダ以北の北米大陸に分布する。

1♂, 11. ix. 2002, MT; 1♂, 18. ii. 2003, MT; 1♀, 4. iv. 2003, MT; 1♀, 10. vi. 2003, MT; 1♀, 30. ix. 2003, MT; 1♀, Tokiwamatsu, 1. iv. 2003, MT.

#### ヤマトオオフンコバエ *Crumomyia nipponica* (Richards, 1964)

腐植質上で見られる。日本固有種。

1♂, 28. x. 2002, MT; 1♀, 11. ix. 2002, MT; 1♂, 6. i. 2003, MT; 1♂, 18. ii. 2003, MT; 1♀, 15. v. 2003, MT.

#### エゾイボハダフンコバエ *Ischiolepta draskovitsae* Roháček et Papp, 1984

おもに腐植質上に見られる。北海道と本州から記録があり、国外では韓国に分布する。

1♀, Tokiwamatsu, 28. x. 2002, MT; 13♂, 8♀, 25. xi. 2002, MT; 23♂, 14♀, 6. xii. 2002, MT; 3♂, 1♀, 24. xii. 2002, MT; 3♂, 3♀, 21. i. 2003, MT; 1♀, 5. ii. 2003, MT; 2♂, 1♀, 18. ii. 2003, MT; 6♂, 11♀, 4. iii. 2003, MT; 5♂, 3♀, 18. iii. 2003, MT; 4♂, 1. iv. 2003, MT; 1♂, 1♀, 15. iv. 2003, MT; 3♂, 5♀, 10. vi. 2003, MT; 3♂, 4♀, 17. vi. 2003, MT; 5♂, 5♀, 24. vi. 2003, MT; 1♀, 28. vi. 2003, MT; 1♂, 30. vi. 2003, SS; 5♂, 7♀, 1. vii. 2003, MT; 3♂, 1♀, 8. vii. 2003, MT; 1♂, 15. vii. 2003, MT; 2♂, 22. vii. 2003, MT; 10♂, 7♀, 2. ix. 2003, MT; 3♂, 2♀, 16. ix. 2003, MT; 4♂, 2♀, 30. ix. 2003, MT.

<sup>1)</sup> 国立感染症研究所昆虫医科学部 東京都新宿区戸山1-23-1

Department of Medical Entomology, National Institute of Infectious Diseases, Toyama 1-23-1, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-8640 Japan

E-mail:thaya@nih.go.jp

トウヨウイボハダフンコバエ *Ischiolepta orientalis* (de Meijere, 1908)

おもに腐植質上に見られ、家畜の糞でも発見される。本州以南に分布し、国外では東洋区に広く分布する。

8♂, 3♀, 25. xi. 2002, MT; 7♂, 7♀, 6. xii. 2002, MT; 1♀, 21. i. 2003, MT; 1♀, 18. ii. 2003, MT; 1♀, 4. iii. 2003, MT; 1♀, 28. iv. 2003, MT; 1♂, 10. vi. 2003, MT; 1♀, 24. vi. 2003, MT; 1♂, 1♀, 1. vii. 2003, MT; 1♂, 8. vii. 2003, MT; 1♀, 2. ix. 2003, MT; 1♂, 16. ix. 2003, MT; 1♀, 30. ix. 2003, MT.

サビイロケブカフンコバエ *Coproica ferruginata* (Stenhammar, 1854)

家畜の糞、堆肥、腐植質等、いろいろなところで見られる普通種である。国外ではほぼ世界中に分布する。

1♂, 18. iii. 2003, SS.

マエアカケブカフンコバエ *Coproica rufifrons* Hayashi, 1991

家畜の糞、堆肥、腐植質等で見られる普通種。日本全土に分布する。本種が記載される以前はチビケブカフンコバエ *Coproica hirtula* (Rondani, 1880) と混同されていたが、最近の報告では東洋区、太平洋地域、中南米の熱帯、亜熱帯地域に広く分布することが判明した (Hayashi, 2001; Roháček *et al.*, 2001)。

1♀, 15. x. 2003, SS.

フサヒゲフンコバエ *Leptocera caenosa* (Rondani, 1880)

本種はヒトの居住環境内でしばしば発見され、東京都内でも屋根裏のネズミの糞から大発生し、不快昆虫となったことがある。また野外の動物の巣穴からも発見されることがある。ほぼ世界中に分布する。

1♀, 14. iv. 2003, MT; 2♂, 28. iv. 2003, MT; 2♂, 1♀, 10. vi. 2003, MT; 1♀, 1. vii. 2003, MT; 1♀, 8. vii. 2003, MT; 1♀, 22. vii. 2003, MT.

マガリミャクフンコバエ *Leptocera nigra* Olivier, 1813

本種は旧北区やアフリカに広く分布し、幼虫は泥中に生息している。次種とは外見上全く区別出来ず、雄交尾器の形態 (林, 2000 参照) や貯精嚢の形態のみで区別可能である。

4♀, 10. vi. 2003, MT; 2♂, 4♀, 2. ix. 2003, MT; 1♂, 8. ix. 2003, SS; 1♂, 1♀, 15. x. 2003, SS; 1♂, 13. xi. 2003, SS; 2♂, 18. xi. 2003, SS.

ニセマガリミャクフンコバエ *Leptocera salatigae* (de Meijere, 1914)

本種は東洋区から南太平洋地域まで広く分布し、日本は北限となっている。日本では従来神奈川県まで記録があったが、赤坂御用地の記録がもっとも東の記録となる。

2♂, 6. xii. 2002, MT; 3♂, 2♀, 15. x. 2003, SS; 1♂, 13. xi. 2003, SS.

モリフンコバエ *Paralimosina japonica* Hayashi, 1985

人糞上に多いが、腐植質上でも見られる。キノコから発生した報告もある。北海道から九州まで分布し、国外ではパキスタン、ネパールから報告されている。

1♀, 28. iv. 2003, MT; 1♂, Tokiwamatsu, 13. v. 2003, MT.

ヒメモリフンコバエ *Paralimosina prominens* Hayashi, 1985

人糞に集まり、腐植質上にも見られる。北海道から九州まで分布する。日本固有種。

1♀, 25. iv. 2002, MT; 1♂, Tokiwamatsu, 13. v. 2003, MT.

キハラチビフンコバエ *Spelobia bifrons* (Stenhammar, 1854)

家畜の糞、堆肥、腐植質上に普通に見られる。ほぼ世界中に分布する。

1♀, 15. x. 2003, SS.

ヒメフンコバエ *Spelobia luteilabris* (Rondani, 1880)

家畜の糞、堆肥、腐植質上に普通に見られる。キノコからの発生例も報告されている。北海道

から九州まで分布し、国外では全北区に広く分布し、ニュージーランドからも記録されている。

1♀, 25. ix. 2002, MT.

ヒメフンコバエ属の一種 *Spelobia* sp.

本種は未記載種である。日本に広く分布し、国外ではパキスタンまでアジア地域に広く分布している。キノコから発生するのを確認している。

1♂, 18. ii. 2003, MT; 1♀, 1. vii. 2003, MT.

カドマルフンコバエ *Terrilimosina brevipexa* Marshall, 1987

本種は湿地や腐植質上で普通に見られ、日本に広く分布している。日本固有種。

1♂, 14. x. 2003, MT; 1♂, 19. xi. 2003, SS.

コガタカドマルフンコバエ *Terrilimosina nana* Hayashi, 1992

前種同様、湿地や腐植質上で普通に見られ、日本に広く分布している。日本固有種。

1♀, 6. xii. 2002, MT; 1♀, 6. i. 2003, MT; 1♂, 1. iv. 2003, MT; 1♀, 14. x. 2003, MT; 1♂, 15. x. 2003, SS.

## 考 察

今回の調査で赤坂御用地より 16 種、常盤松御用邸より 4 種のフンコバエ類が採集された。

本科のハエ類は、英名 *Lesser dung fly* が示すとおり、各種動物糞より発生する種が多いが、今回採集された種はほとんどが腐植質やキノコ類より発生するものと思われた。

東京都心に残された大型緑地からの本科の記録としては、皇居で 15 種類が報告されている（林, 2000）。今回の結果と比べた場合、その種構成は概ね類似したものであった。これはいずれも発生源が腐植質やキノコ類と限られていることが原因と思われる。皇居では採集されず、赤坂御用地のみで採集された種が 5 種あったが、サビイロケブカフンコバエ、マエアカケブカフンコバエ、ヒメフンコバエの一種の 3 種は国外にも広く分布する普通種であり、皇居でも今後調査を進めてゆけば発見される可能性は大きいと思われる。ニセマガリミャクフンコバエも東洋区から南太平洋地域まで広く分布する種であるが、本州が分布の北限で、今回の採集記録が本州でもっとも東の記録となった。

皇居、赤坂御用地ともに優占種はエゾイボハダフンコバエであり、とくに赤坂御用地では採集個体の多くの割合を占めた。これは単に個体数の多寡のみが原因ではなく、その生態が関係していると思われる。本科のハエ類は一般的にあまり飛翔が活発ではなく、地面を歩行したり、すれすれを短距離飛翔する場合が多いのに対し、エゾイボハダフンコバエやトウヨウイボハダフンコバエの *Ischiolepta* 属は比較的良好に飛翔するため、マレーゼトラップ主体の採集では個体数が多くなるものと思われる。

腐廃物（動物性、植物性）を誘因源にすることでマレーゼトラップやスウィーピング法では採集されない種が多く採集されることから、今後採集方法を変えることにより、さらに種類数は増える可能性がある。

## 謝 辞

東京医科歯科大学の篠永 哲博士には赤坂御用地および常盤松御用邸で採集された貴重な材料を提供していただいた。ここに心よりの感謝の意を表します。

## Summary

Lesser dung flies (Diptera, Sphaeroceridae) of the Akasaka Imperial Gardens, Tokyo, were studied, and 16 species of 7 genera are recorded. In addition, 4 species collected in the Tokiwamatsu Imperial Villa, Tokyo, are recorded. The records of *Leptocera salatigae* (de Meijere, 1914) are easternmost in Japan.

## 引用文献

- 林 利彦, 2000. 皇居で採集されたノミバエ類およびフンコバエ類. 国立科博専報, (36): 445-449.
- Hayashi, T., 2001. Distributional notes on *Coproica rufifrons* Hayashi (Diptera: Sphaeroceridae) in the Australasian and Oceanian Regions. *Med. Ent. Zool.*, **52**: 253-254.
- Roháček, J., S. A. Marshall, M. Buck & I. Smith, 2001. Subfamily Limosininae. In Roháček, J. (ed.), World catalogue of Sphaeroceridae (Diptera), pp. 110-295. Slezské Zemské Museum, Opava.